

震災がれきを搬出

東北以外で
初受け入れ
宮古から、きょう東京に



東京都に搬出するため、トラックのコンテナに積み込まれるがれき。2日午前、岩手県宮古市で

東日本大震災で発生したのがれきを東北地方以外で岩手県宮古市のがれきを東京に搬出する作業が2日、始まった。岩手、宮城

のがれきを東北地方以外で受け入れるのは初めて。ほかに受け入れを検討する自治体は激減しており、広域

処理が進まず復興に影響が出る恐れもある。宮古市の仮置き場では、業者ら約20人が野積みされたがれきをパワショベルなどで分類。放射線量を測定し、基準値を大きく下回っているのを確認してコンテナ6個に積み込んだ。

盛岡市内からJR貨物で鉄道輸送され、3日朝、都内に到着する。東京都は住民の不安を取り除くため、破碎作業前にも放射線量を測定し、結果を公表。江東区と大田区の間で処理施設で破碎する。可燃物は江東区の焼却施設で焼き、焼却灰と不燃物を都の処分場に埋め立てる。

4月の調査では42都道府県、572市町村などが受け入れる意向を示したが、

10月の調査では既に受け入れたところも含め、54に激減した。

見守った宮古市の山本正徳市長は「このような状態で災害廃棄物を置いておくわけにはいかない。東京都の協力を感謝している」と話した。

この日は約30トを搬出。

岩手県がこれまでに宮古

市のがれきや焼却灰の放射性物質濃度を測定した結果、1結当たり133 Becquerelsと、埋め立て可能な国の基準（8千 Becquerels）を大幅に下回っていたが、都には「放射能が心配」「汚いから持ち込むな」などと抗議の電話やメールが多数寄せられた。

環境省によると、岩手、宮城、福島は3県で出たがれきは計約2300万トと推定される。住民が生活する地域から仮置き場に集められているが、その後の処分は進まず、がれきの山の火災や異臭が問題となっている。